

# バスケットボールのルール改正による選手・チームへの影響に関する研究

山崎 亮太 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 上利 理代

キーワード：ルール改正, 指導者, 対策,

## 1. 緒言

現在のバスケットボールでは, 様々なルール変更が度々行われている. 今まで許されていたプレーが許されなくなることも生じるなど, ルール変更というものはとても大きな問題である.

## 2. 研究方法

本研究の調査対象者は, 中学生男子トップレベル, 高校生男子中堅レベル, 社会人中堅レベルのチームに所属するプレーヤー.

調査方法は, それぞれルール改正前と改正後のルールで試合を行い, 得点の取り方や攻め方, 守り方などを記録する. また 2 P, 3 P の試投数や成功率も記録し表にまとめ統計処理を行う. さらに簡易なアンケート調査を行い, チームや指導者の方針が変わったのかなども調査する.

## 3. 結果と考察

表1 高校生 (ルール改正前)

チーム1	2 P		3 P		ゴール下及びレイアップ	
	試投数	成功数	試投数	成功数	試投数	成功数
A選手	4	2	5	3	5	4
B選手	5	2	6	1	7	4
C選手	4	2	4	1	8	5
D選手	6	3	5	2	9	7
E選手	3	2	4	1	5	4

表2 高校生 (ルール改正後)

チーム1	2 P		3 P		ゴール下及びレイアップ	
	試投数	成功数	試投数	成功数	試投数	成功数
A選手	5	4	2	1	7	7
B選手	6	3	4	1	9	9
C選手	7	4	3	0	11	9
D選手	7	2	2	0	13	8
E選手	6	3	1	0	8	7

高校生チームでは, ゴール下及びレイアップでの場面で差が生まれている. 3 Pはチーム1の方が極端に成功率が下降している. 高校生のチームでも t 検定を行った結果, チーム1の3 P成功数とゴール下及びレイアップの結果で有意差があると分かった.

## 4. まとめ

本研究により, バスケットボールのルール変更はプレイヤー, チーム, 指導者や審判に対して大きな影響があると分かった. しかし, ルール変更によって伴う影響は全てが悪い影響だけではない. プレイヤーの更なる成長のための制限ということも考えられるのであろう.

今回本研究の目的であったチーム・選手・指導者への影響という点について, 今後のバスケットボールを発展させていくためには必要不可欠だということが分かった.

引用・参考文献

稲垣安二 (1982) 球技の戦術体系に関する研究, 日本体育大学紀要, 11 1-11